

地域子育て支援拠点研修事業「青森開催」

<開催概要>

- 開催日 平成22年9月26日(日) 10:00~16:30
- 会場 アピオあおもり
- 主催 財団法人こども未来財団・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援 厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・青森県・青森市
- 協力 青森県子ども家庭支援センター
- 参加者数 84名(男性9名 女性75名)
(行政16名、NPO/任意団体13名、他団体/企業51名、その他4名)

<開会挨拶> 10:00 ~ 10:10

主催者あいさつ

財団法人こども未来財団 研修事業部部长 池野周平 さん



池野 周平さん

開催地挨拶

青森県健康福祉部こどもみらい課課長 川嶋由紀子 さん



川嶋 由紀子さん

プログラム1 基調報告 10:10~10:40

「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

【講師】 鈴木健吾さん 厚生労働省雇用均等・児童家庭局 少子化対策企画室 室長補佐

地域子育て支援拠点事業の概要と位置付け、「ひろば型」の実施状況、また、国の施策や動向について、データに基づき具体的な説明がありました。最後に子育て支援を巡る最近の動きとして、「子ども・子育て新システム検討会議」が設置され、子ども・子育てを社会全体で支援するための、様々なサービスを提供、享受できるような新しいシステムづくりが進んでいる現状を説明していただきました。



鈴木 健吾さん

プログラム2 基調講演 10:45~12:00

『地域子育て支援拠点事業における活動の指標「ガイドライン」について』

【講師】 金山美和子さん 長野県短期大学 講師



金山 美和子さん

2010年、地域子育て支援拠点は全国で5200か所を超え、支援の質の確保が重要になったことから、「ガイドライン」着手したこと、またそのガイドラインに基づきながら「地域子育て支援拠点とは」「支援者の役割」「子どもの遊びと環境」「親との関係性」など具体例をあげながら、丁寧に説明していただきました。

ご自身もNPO法人として2つの「ひろば」に関わった経験から、『ガイドライン』は必要最小限、デコレーションケーキのスポンジ。どんなクリームを載せるかは、それぞれの広場。場所や大きさが違えば役割や性格も違ってくる。」また、支援者の役割としては、「どんな親子でも心から受け入れる。もし、少しでもいや

だと思ったら、それは表情に出る。」「あなたのものさしでは測れない。常識と思っていることは実は常識ではない。自分の子どもを見ない親や、毎日来る親に対して、生活の背景に思いを寄せ、原因や事情を理解することが大事なこと。」という説明がありました。

プログラム3 分科会 13:00~15:30

第1分科会 「居心地のよい拠点づくりのイロハ」

- | | | |
|------------|---------|--------------------|
| 【講師】 | 金山美和子さん | 長野県短期大学 講師 |
| 【コーディネーター】 | 野口比呂美さん | NPO法人山形育児サークルランド代表 |
| 【事例報告】 | 棟方千恵子さん | つどいの広場「さんぽぽ」スタッフ |
| 【利用者発表】 | 五十嵐陽子さん | つどいの広場「さんぽぽ」利用者 |
| | 萩原由紀子さん | つどいの広場「さんぽぽ」利用者 |

最初に講師の金山美和子さんに「利用者にとっての居心地の良い拠点とは？」ということを実例と写真を交えての説明がありました。その中で、利用者の声を聞くことの大切さと、利用者をお客様にしない、利用者とともに居心地の良さをつくるための説明がありました。



野口 比呂美さん



金山 美和子さん

青森市つどいの広場「さんぼぼ」スタッフ棟方千恵子さんの事例報告では、元気なお母さんはプログラムのある支援センターにいくらでも入っていけるので、元気がないとか勇気のないお母さんが気軽に入ってこられるような、ノンプログラムの広場をつくってきて、今もその主旨を貫いていること、さらに昨年の秋田での研修に参加して、利用者が関わることでもっと利用しやすい広場を目指して、工夫していることなどが紹介されました。



棟方 千恵子さん



五十嵐 陽子さん



萩原 由紀子さん

お二人の利用者からの報告は、さんぼぼは「安全、安心、ほどよい距離感」があり、上から目線やおせっかいがなく、子育てに行き詰まった時、助けてもらったことや、自分も友だち作りができ、子どもは子どもで刺激を受けたり成長できる遊び場であることが紹介されました。

また、これからの提案として、子どもの月齢別の意見交換の場や、情報交換のツールとしてのノートの活用、1，2分のエプロンシアターや読み聞かせの機会がほしいなど、様々な提案がありました。

引き続きグループワークでは、事例発表を受けて「私が気付いたこと」「居心地のよい拠点をつくるためにやってみたいこと」をテーマに話し合いました。

「やる側の目線ではなく、利用してくれる人の目線に立つことの反省」「大人も子どもも自己肯定感が低い。がんばっているよねの声掛けで自信を取り戻す」「メッセージボックスを置いてみようと思う」「ノンプログラムもいいけどプログラムもいい」「利用者の声がこんなに聞けるなら、うちでも聞いてみたい」「利用者同士がつながるしかけとして、食事がいい」「スタッフが多忙なら、地域のボランティアがいます（教育関係）」などの意見があがっていました。

最後に、金山さんから、プログラムが悪いわけではなく、プログラムをやる時には、みんなが同じ事をやらなくていいスペースを確保したり、メッセージを伝えることが必要。すべての拠点で同じ支援を投げかける必要はなく、お互いの特色を活かした子育て支援拠点づくりを目指すことを確認しました。

第2分科会

「拠点に活かす様々な子育て支援のかたち」

【コーディネーター】 松田妙子さん NPO法人せたがや子育てネット代表理事

【事例報告】 小川千恵さん NPO法人むつ下北子育て支援ネットワークひろば 代表理事

【事例報告】 石坂千雪さん 鹿角市地域子育て支援センター主任指導員



松田 妙子さん

最初に、お二人の事例報告者から、それぞれの取組みについて紹介していただきました。行政と市民の中継ぎ役になるような活動を心がけているという小川さんからは、地域のニーズを丁寧に掘り起こし実践している様子を伺いました。一緒に活動したり茶飲み話をする中からあがった声を拾い上げ、再度声をかけて一緒に実現していった様子が紹介され、地域で理解されるように、事業を通して取組みを見せていくことも大事という報告がありました。



小川 千恵さん



石坂 千雪さん

石坂さんからは、とかく縦割りになりがちの中で、領域を越えて取組むことにより、お互いをカバーできている鹿角市の成功例をお話いただきました。「あきらめない」そしてダメだったら変える「修正できる自分」をキーワードに、集客のためのイベント主義に陥らず、本当に今必要なことは何かを考えることが大事という報告がありました。

休憩を挟んだグループワークでは、自分の拠点について、地域の特性と課題をあげ、それにつながる支援を考えてみました。市からの情報に期待できない中、出てこれない人が出てこられるようになるためにはどんな工夫があるのか。サークルの渡り歩きは、支援者側の意識を変えることにより、問題行動ではなくなること。魚菜センターの空きスペースを利用したひろば開設の企画など、熱心な話し合いがもたれました。

松田さんより、「問題を一口大に切る」ことの重要性が説かれ、大きな問題、難解な問題は、自分でそしゃくできる大きさに切り、「やりたい、やりたい」というエピソード探しから始めることが大事だということを確認しました。



第3分科会

「拠点スタッフの役割・スタッフに求められる力」

【コーディネーター】 富田愛さん 横手市子育て支援センター 元指導員

【事例報告】 佐藤真理子さん ひまわり保育園地域子育て支援センター 指導員
齋藤喜志子さん 子育てランドあ〜べ ひろばチーフ

最初に、それぞれの事例報告をしていただきました。

まずは、「子育てランドあ〜べひろば」の事例をもとに見守る支援（時間をかけてゆっくり丁寧に見守る）をするために、13人のスタッフが常に情報を共有し意識統一をするための具体的な方法と、常時2人のスタッフが連携をとり、ひろばに来るお母さん方へむけて「居心地のいいひろば」を心がけているという報告がありました。



富田 愛さん



齋藤 喜志子さん



次に、ひまわり保育園地域子育て支援センターの佐藤さんより、8年間の子育て支援センターでの経験から、多くの事例を出していただきました。子育ての環境は母親が動くことによって変わることを実感し“子育て支援とは「親育て」の場としての役割がある。親が自信を持ち、自己肯定感を向上させ、人と人をつなぐ力が求められている”という報告がありました。



佐藤 真理子さん

グループワークでは、各グループで自己紹介をした後「自分だけではできないけれど、みんなでやったらできるかもしれない」というテーマで2年後の目標を出し合いました。今、何が課題なのか、あらためてスタッフとしての姿勢を振り返る時間をもてたことと、それぞれ活動場所が違う人たちの情報交換の場にもなりました。

まとめとして富田さんから、スタッフ間のチームワークがとても重要。そして横のつながりも大切。もちろん今日の出会いも連絡できる関係を作る場になる。この種を是非蒔いて欲しい。チームワークが深まることを願って、それぞれのものとして活かしていくことを確認しました。

プログラム4 全体会（分科会総括・ディスカッション） 15：40～16：25

【コーディネーター】青森県立保健大学 教授 中村由美子さん

【第1分科会】 野口比呂美さん NPO 法人山形育児サークルランド代表

【第2分科会】 松田妙子さん NPO 法人せたがや子育てネット代表理事

【第3分科会】 富田愛さん 横手市子育て支援センター 元指導員



野口 比呂美さん



松田 妙子さん



富田 愛さん

最初に各分科会の報告があり、それぞれの分科会の報告者を中心とした意見交換がおこなわれました。その後中村さんの巧みなコーディネートにより、会場内からもたくさんのご意見をいただくことができ、青森県の子育て支援拠点について、全体で学びを共有するいい機会となりました。



中村 由美子さん

<閉会あいさつ> 16：25～16：30

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

理事 野口 比呂美さん



野口 比呂美さん